

3

運 転 す る と き

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ	3-2
ライティングスイッチ	3-5
オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）	3-7
光軸調整ダイヤル	3-9
方向指示レバー	3-10
フロントフォグランプスイッチ	3-11
ワイパー&ウォッシャースイッチ	3-11
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）スイッチ	3-15
ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ	3-16
ホーンスイッチ	3-16

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター	3-17
表示灯	3-23
警告灯	3-25

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた	3-31
駐車ブレーキレバー	3-33

マニュアル車の運転

チェンジレバー	3-35
---------	------

i-CVT車の運転

セレクトレバー	3-36
運転手順	3-39
Info-ECOモード	3-43
スポーツモードスイッチ	3-44
スポーツシフト	3-45

AWD車の運転

運転するとき	3-47
--------	------

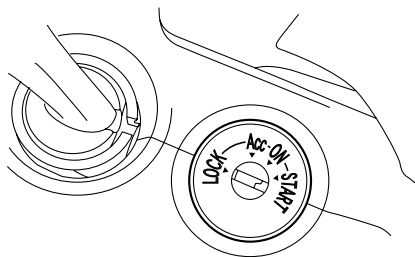
ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS	3-49
ブレーキブースター（制動力倍力装置）	3-53

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

■各位置の働き



300109

LOCK (ロック)	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます。
Acc (アクセサリー)	エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON (オン)	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます。
START (スタート)	エンジンを始動する位置

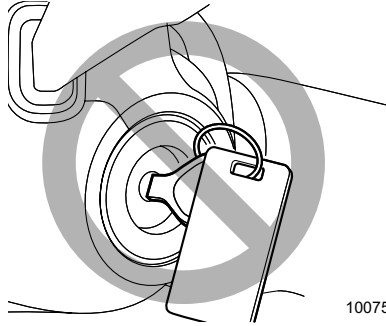
警告

走行中 LOCK にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

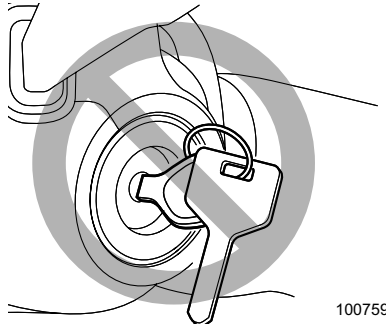
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーをキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーや
アクセサリがかさなっている
とき



100758

キーグリップに他のキーがかさ
なっているとき



100759

運転するとき

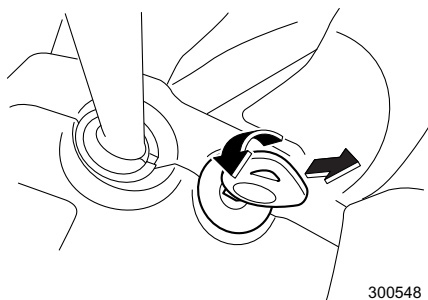


アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。
長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーが LOCK から Acc に回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

i-CVT車は、セレクトレバーをPにしてキーをLOCKに回してください。



300548

アドバイス

- i-CVT車でキーが抜けないときは、システムの故障が考えられますので、スバル販売店にご連絡ください。
- ルームランプをDOOR位置にしている場合、キーを抜くと一旦点灯し、徐々に消灯します。

☆4-65ページ参照

■キー抜き忘れ警報

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

エンジンスイッチの周辺が点灯します。運転席のドアを開けたとき、または携帯機およびリモコンキーで解錠したとき点灯し、閉めると一定時間点灯後消灯します。

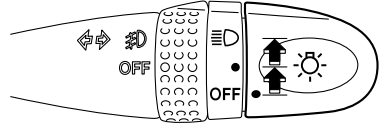
●オフディレイ機能

リモコンキーおよび携帯機で解錠または、ドアを開けて閉めたときに約30秒間点灯し、消灯します。（オフディレイ機能）

ライティングスイッチ

ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。

レバー内のスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



300018

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF		消灯
●	消灯	点灯
≡D		点灯

注意

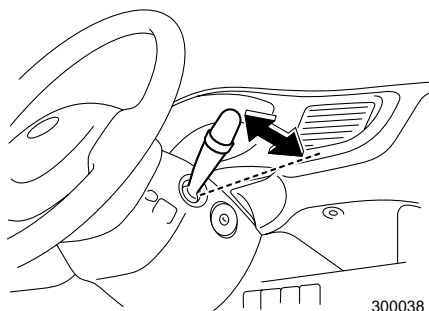
- エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。バッテリー上がりを起こします。
- スマートキーレス付車では下記のライティングスイッチ操作にてスマート機能が停止します。
 - － 全てのドアを閉めてエンジンスイッチがLOCK（キーは差さっていない状態）で下記a)、b)いずれかの操作を5秒以内に行うとブザーが3回鳴り、スマート機能が停止します。
 - a) ライティングスイッチをライトOFF→ON位置に回す操作を3回行う。
 - b) ライティングスイッチOFFの状態からライティングスイッチでパッシング操作を3回行う。
 - － スマート機能を復帰させるにはエンジンスイッチにキーを差しONにしてください。

アドバイス

エンジンスイッチをLOCK、あるいはキーを抜いているときでも、ライト類を点灯させることができます。

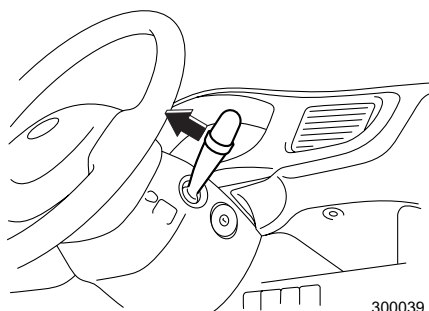
■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押しと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。



■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプは上向きになります。
ライティングスイッチがOFFでも使えます。



■ライト消し忘れ警報

キーを抜いたとき、ライティングスイッチが●または☺のまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。



アドバイス

この状態でキーをエンジンスイッチに差したままのときは、キー抜き忘れ警報が優先されます。

☆3-4ページ参照

<スマートキーレス付車>

ライト消し忘れ防止のため、ライティングスイッチが☺の状態では、スマート機能および携帯機のボタン操作によるドアの解錠・施錠が行えないようになっています。

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）※

ヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。

HIDランプは従来のヘッドランプに比べて大変明るいので、照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

警告

HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

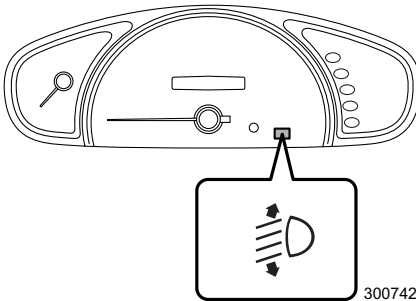
エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

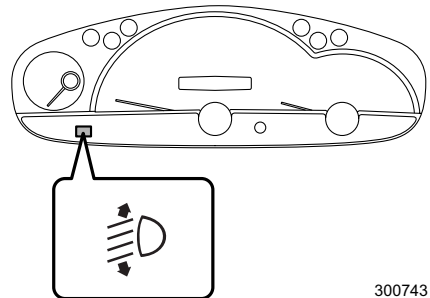
注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

<タイプAメーター>



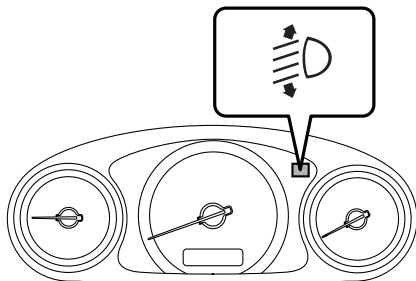
<タイプBメーター>



次ページへ ⇒

⇒前ページより

<タイプCメーター>



300744



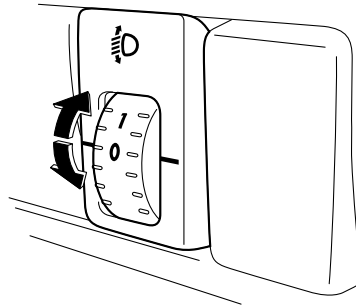
アドバイス

- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変わることがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル ✕

ヘッドランプにハロゲンバルブが装着されている車には、光軸調整機構がついています。エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。
- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。



300741

R1 : R, S

R2 : F, R, S (2WD)

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	2名	無
2	2名	2名	有※
	1名	0名	有※
3	—	—	—

R2 : S (AWD)

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	2名	無
	2名	2名	有※
2	1名	0名	有※
3	—	—	—

※：荷室満載にした場合

🏠 アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- 光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

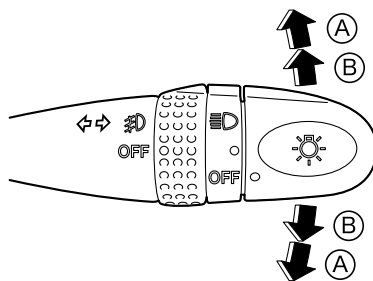
方向指示レバー

ハンドルの右側のレバーが方向指示レバーです。

エンジンスイッチがONのとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーは自動的に元の位置に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

☆3-23ページ参照



300017

🏠 アドバイス

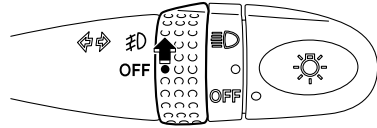
車線変更の合図をするには

レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。(Ⓑ位置)

手を離すとレバーは元の位置に戻ります。

フロントフォグランプスイッチ ❖

ライティングスイッチが●または☺Dのとき、レバー内のスイッチを☺の位置に回すとフロントフォグランプが点灯します。
点灯中はメーター内の表示灯が点灯します。スイッチをOFFの位置に戻すと消灯します。



300019

アドバイス

フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計されていますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときにだけ使用してください。

運転するときは

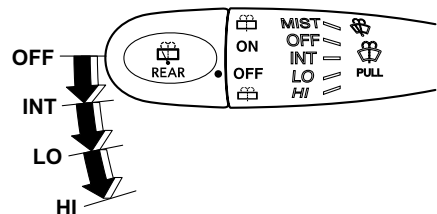
ワイパー&ウォッシャースイッチ

ハンドルの左側のレバーがワイパー&ウォッシャースイッチです。エンジンスイッチがAccまたはONのとき使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

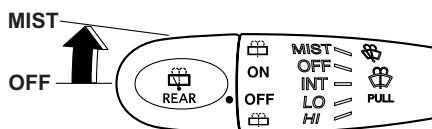
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



300024

●ワイパーを1回だけ使いたいときには (MIST)

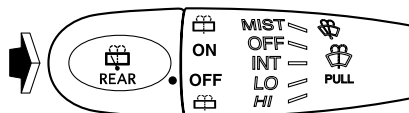
レバーを上押ししている間、ワイパーが動きます。



300022

●フロントウォッシャー

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、連動してワイパーも動きます。





300023

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

レバー内のスイッチを回すと作動します。




300036

 (上側)	ワイパー作動中にウォッシャー液が噴射し、手を離すとONに戻ります。
ON	連続で作動
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、手を離すとOFFに戻ります。

🏠 アドバイス

- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてから助手席側を起こします。戻すときは助手席側を先に戻してから運転席側を戻してください。逆の順序ではワイパーアーム同士が接触し、傷がつく可能性があります。
- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残しができるときにはブレードのラバーを交換してください。

☆6-15ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - － フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター) にしてください。
 - － リヤガラスは、リヤウインドウデフォグガーを使用してください。

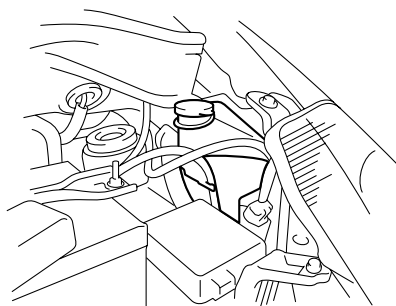
☆3-15、4-7、4-12ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKの位置にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

■ウォッシャータンク

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。

ボンネットを開け、向かって右側にタンクがあります。フロントとリヤの共用になっています。(リヤワイパー装備車以外はフロントのみ)



300037

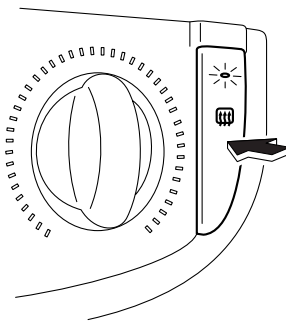
⚠ 注意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
☆4-4、4-8ページ参照
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。
☆5-3ページ参照
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないよう注意してください。
ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

リヤウインドウデフォグー (曇り取り) スイッチ

リヤウインドウデフォグーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの右横にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯します。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。(表示灯が消灯します)
- ヒーテッドアミラー付車は、約15分で自動的にOFFになります。



300908



注意

リヤウインドウの曇りが取れたらスイッチを押し、OFF にしてください。バッテリー上がりの原因になります。



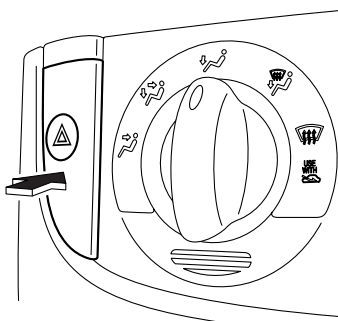
アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。

ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチはエアコン操作パネルの左横にあります。スイッチを押すと左右の方向指示器が点滅します。

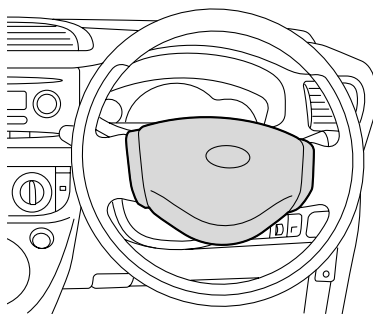


アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■メーターの初期作動（タイプCメーター）

エンジンスイッチをONにするとメーターの指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。その後文字盤が点灯します。



アドバイス

メーターの初期作動は作動、非作動の設定ができます。
☆3-21ページ参照

■スピードメーター

車の走行速度を示します。
エンジンスイッチをONにすると、指針が出てきます。（タイプBメーターのみ）



アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。
エンジンスイッチをONにすると、指針が出てきます。（タイプBメーターのみ）



注意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。



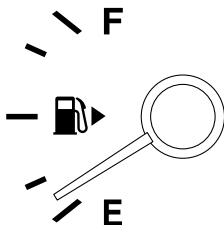
アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

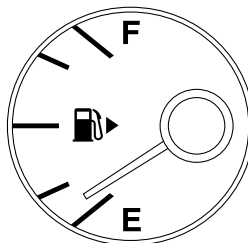
燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
☆2-21ページ参照

<タイプAメーター>



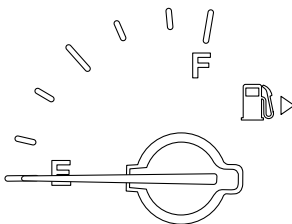
301343

<タイプBメーター>



300015

<タイプCメーター>



301344

⚠ 注意

燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。
☆1-26ページ参照

 **アドバイス**

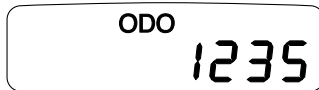
- エンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。
- エンジンスイッチが ON 以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと約10秒間燃料の残量を表示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- 給油量が少ない場合（約10ℓ以下）、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。

■ **オドメーター（積算距離計）**

走行した総距離をkmで表示します。

<タイプAメーター、タイプBメーター>

<タイプCメーター>



300547

300394

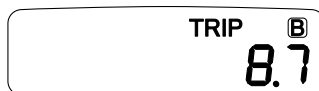
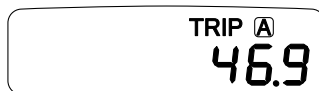
運転するとき

■トリップメーター（区間距離計）

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999.9 kmです。
AとB、2種類の設定ができます。

<タイプAメーター、タイプBメーター>

<タイプCメーター>

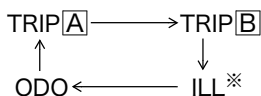


300012

300395

●トリップ[A]、[B]、オドメーター切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



※タイプCメーター

●トリップメーター[A]・[B]を0に戻すとき

トリップ[A]または、トリップ[B]のリセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。



アドバイス

- エンジンスイッチが ON 以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、約 10 秒間バックライトが点灯し、オド／トリップメーターを表示します。
- 液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

■メーターの初期作動の設定 (タイプCメーター)

初期作動は作動、非作動の設定ができます。

☆3-17ページ参照

●初期作動の設定のしかた

- ① エンジンスイッチを ON 以外の位置にします。
- ② オドメーター・トリップメーターをオドメーター表示に切り替えて、トリップ切り替え/トリップリセットノブを3秒以上押します。
- ③ オドメーター・トリップメーターに現在の設定が表示されます。
- ④ このときトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すたびに設定が切り替わります。
- ⑤ 3秒間トリップ切り替え/トリップリセットノブの操作がない場合、設定を完了しオドメーターの表示に戻ります。

S-on

S-off

300536

アドバイス

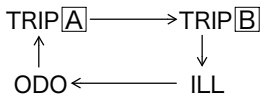
キーを挿していない状態でも、初期作動の設定はできます。

■メーターイルミネーションコントロール (タイプCメーター)

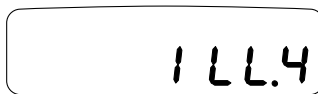
メーターの明るさ（輝度）を5段階に調整することができます。

●調整のしかた

- ① トリップ切り替え/トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



- ② ILL表示にすると現在の明るさ（輝度）が表示されます。
数字が大きくなるほど、明るく表示されます。
- ③ ILL表示のとき、トリップ切り替え／トリップリセットノブを1秒以上押し続けると明るさ（輝度）が順次変化します。設定したい明るさ（輝度）でノブを離すと設定されます。
- ④ もう一度トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すとオドメーターに切り替わります。



300535



アドバイス

- キーを挿していない状態でも、イルミネーションコントロールの設定はできます。
- ILL表示で10秒間操作がない場合、オドメーター表示に切り替わります。

表示灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器の電球やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なった電球を使うと点滅の速さが異常になります。

すみやかに点検し、異常のある電球やヒューズを交換してください。

☆6-21、6-26ページ参照

■ハイビーム/パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きするとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。



■Info-ECOモード表示灯

通常は点灯しています。

点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、表示灯は消灯します。

☆3-43ページ参照

ECO

運転するとき

注意

エンジンスイッチを ON にしたとき、点滅し続けるときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シフトポジション表示灯

マニュアルモード選択時、ギヤ位置を表示します。

☆3-45ページ参照

3

300654

■セレクトポジション表示灯 (i-CVT車)

セレクトレバーの位置を示します。

☆3-36ページ参照

<タイプAメーター>

P

R

N

D

L

300001

<タイプBメーター>

P

R

N

D

L

300000

<タイプCメーター>



300586

⚠ 注意

タイプCメーターでセレクトポジション表示灯に“E”が表示されたときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■SPORT (スポーツ) モード表示灯

SPORT

センターパネルの“SPORT”スイッチを押すとスポーツモードが選択され“SPORT”表示灯が点灯します。

☆3-44ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが●または≡D位置時に点灯します。



■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。



アドバイス

フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計されていますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときにだけ使用してください。

警告灯

■ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-51ページ参照



運転するとき

注意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
- ブレーキ液が正常で、ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム (ABS) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯



- エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。
- 運転席シートベルト未着用のまま車速約22 km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。
- 約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。

アドバイス

このとき車速が約22 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

☆2-40ページ参照

■ABS警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-50ページ参照

注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速約10 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

AIR
BAG

■SRSエアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。

SRS エアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムに異常があると点灯します。

☆2-46、2-55ページ参照

警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。



注意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

運転するとき

■チャージ警告灯



エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯



エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジンまたはi-CVT電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジンまたはi-CVT電子制御システムに異常があります。
急加速、急発進、高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯



エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約5リットル以下になると点灯します。

⚠ 注意

タイプCメーターで警告灯が点滅したときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■水温表示灯／水温警告灯



この警告灯は、水温の低温を示す表示灯（青）とオーバーヒートを示す警告灯（赤）があります。

エンジン始動後、ある一定の温度に達するまで表示灯は青く点灯し、ある一定の温度に達すると表示灯は消灯します。

エンジンがオーバーヒート状態になると警告灯が赤色に点灯します。

⚠ 注意

- 赤色に点灯したときは、車を安全な場所に止め、オーバーヒートの処置を行い、スバル販売店で点検を受けてください。

☆7-20ページ参照

- タイプAメーター、タイプBメーターで、エンジンスイッチをONにしても赤く点灯し続けるときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- タイプCメーターでエンジンスイッチをONにした場合に、赤色と青色が交互に点灯し続けるときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

- エンジンスイッチをONにすると、約1秒間赤く点灯し、その後消灯あるいは青く点灯します。
- 走行状態により、再始動時しばらくの間赤く点灯する場合がありますが、消灯すれば異常ではありません。

■ステアリング制御警告灯

STEER
-ING

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

次の場合に警告灯が点灯することがあります。

停車中に必要以上の空吹かしを続けた時、または外気温度が冷えている場合（0℃以下が目安ですが若干の差があります）で、約10分間の暖機運転後に、必要以上にエンジン回転数を上げると点灯することがあります。（点灯している状態ではハンドル操作力は重くなります）しかし、走行を開始すると（車速6 km/h以上）、警告灯は消え、正常の操作力になります。

次の場合にハンドル操作が重くなることがあります。

- エンジン始動直後10分間、停車中に必要以上にエンジン回転数を上げたとき。
走行を開始すると（車速6 km/h以上）、正常の操作力になります。
- エンジンをかけた状態で、停車中にハンドル操作を繰り返したとき。
しばらくすると正常の操作力になります。

■オートヘッドランプレベラー警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
- ③ エンジンスイッチにキーを差し込み“START”までスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（i-CVT車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② エンジンスイッチにキーを差し込み“START”までスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

警告



車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。

車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注意

- エンジンを始動するときには必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒位休んでからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。
- エンジンがかかった後は、アイドル回転が高めに保たれます。

アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹きや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキがかかっていることを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱい踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温表示灯（青色）が消灯しない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、A/Cスイッチ、リヤウインドウデフォッガースイッチをOFFにした方が、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合があります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- i-CVT 車は、、でアクセルペダルを踏み込んででも高回転まで上がらないようになっています。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

アドバイス

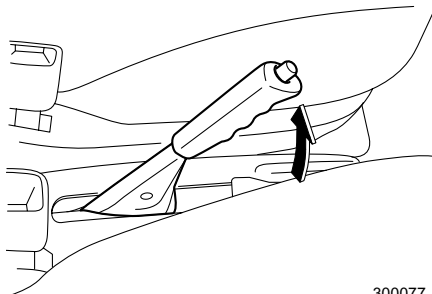
車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱい引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

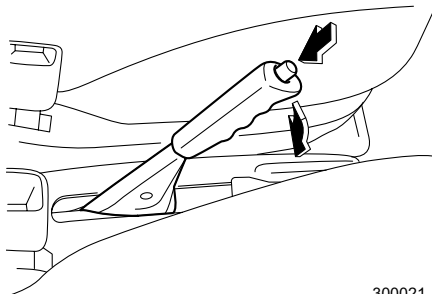
☆3-25ページ参照



300077

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



300021



注意

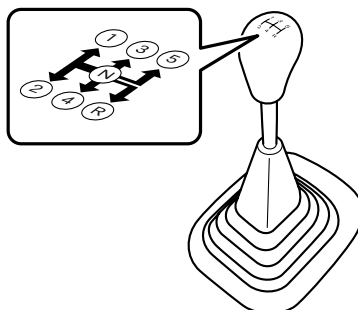
- 駐車するときは車が動き出さないようにレバーを確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。
- 助手席を倒して最前位置にすると、シートベルトのバックルと駐車ブレーキレバーのすき間が狭くなります。操作する際は充分注意してください。

マニュアル車の運転

チェンジレバー

■チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込んで確実に操作してください。



300033

⚠ 注意

- “R” に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってから入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。
- 5速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5” → “R” へ直接入れることはできません。一度 “N” に入れてから “R” に入れてください。



🏠 アドバイス

変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

i-CVT車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

 (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけて「P」にしてください。
 (リバース)	後退位置	ブザーが鳴り、ドライバーに「R」であることを知らせます。
 (ニュートラル)	中立位置	
 (ドライブ)	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
 (ロー)	登・降坂路走行位置	エンジンブレーキが必要なとき、追い越し、山岳走行を行うときに使用します。 この位置でも自動変速します。

☆「i-CVT車の特徴と運転上の注意」をご覧ください。(1-11ページ参照)

警告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- **P**でエンジンをかけてください。
Nでもエンジンはかかりますが、安全のため**P**でかけてください。
- **P**、**R**に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 切り返しするとき、**D**→**R**、**R**→**D**と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルを確実に踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- **R**に入るとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。

アドバイス

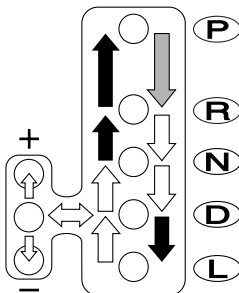
- i-CVT車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- i-CVT車は、**P**、**N**でアクセルペダルを踏み込んでも高回転まで上がらないようになっています。

■セレクトレバーの操作方法

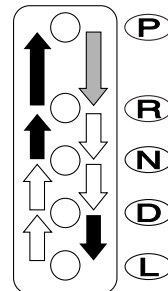
レバーは各位置で確実に止まるところまで動かしてください。

〈スポーツシフト装備車〉




〈スポーツシフト装備車以外〉



300031



300032

	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
	ボタンを押さずに操作します。
	ボタンを押したまま操作します。



アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごと、確実に行ってください。
- [P]の位置から他の位置にレバーを動かすときは、先にブレーキペダルを踏んでからレバーを動かしてください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを[P]から他の位置に動かすことはできません。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを手前に引いてからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバーを操作してください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。([P]以外ではキーをAccからLOCKに回せません。)

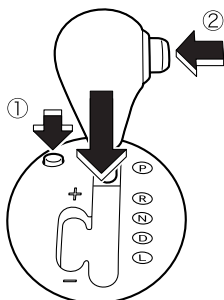
●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

▼解除のしかた

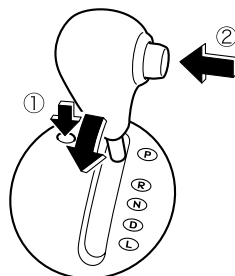
- ① ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押し続けます。
- ② シフトボタンを押しながらセレクトレバーを下側に動かします。

〈スポーツシフト装備車〉



300388

〈スポーツシフト装備車以外〉



300387

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。

運転するとき

運転手順

■エンジンをかける前に

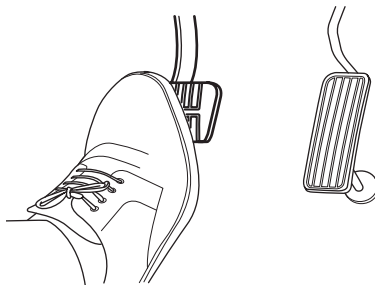
- ① 正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

☆2-29ページ参照

- ② アクセルペダルの位置を右足で確認します。
- ③ ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



300076

■エンジン始動

- ① 駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。

注意

[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③ ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
- ④ エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
- ③ セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ 駐車ブレーキレバーを戻します。
- ⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドル回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-11ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

🏠 アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し

- ① 駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
- ② 車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■ 走行

通常の走行時：

Ⓓで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速時：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-11ページ参照

下り坂のとき：

エンジンブレーキを併用してください。Ⓖにするかマニュアルモードにしてシフトダウンします。

☆3-45ページ参照

⚠️ 警告

走行中はセレクトレバーをⒼにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠️ 注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

🏠 アドバイス

- 急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 極低温時の後退時にエンジン回転数が一定回転以上あがらないことがありますが異常ではありません。

■ 駐車

- ① 車を完全に止めます。

注意

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

- ② ブレーキペダルを踏んだままの状態、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
- ③ セレクトレバーを[P]に入れます。
セレクトレバーが[P]のときは、車が動き出す心配がなくより安全です。
- ④ エンジンを止めます。

☆1-22ページ参照

注意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。

■ 停車

- ① [D]のままブレーキペダルを確実に踏みます。

注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリーブ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
- ③ 長時間停車するときは[P]にします。
- ④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが[D]にあることを確認して発進します。

⚠ 注意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリーブ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

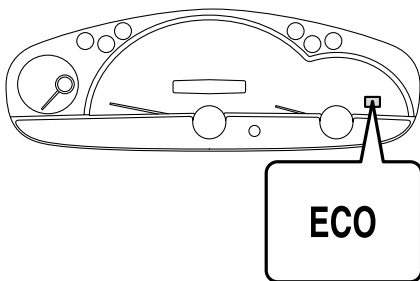
Info-ECOモード

i-CVTの最適な制御によって燃費を向上させるモードです。

“ECO”表示灯が点灯中は、i-CVTが低燃費走行に最適な変速制御をします。

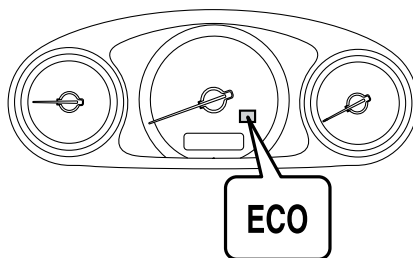
急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“ECO”表示灯は消灯します。

<タイプBメーター>



300389

<タイプCメーター>



300546

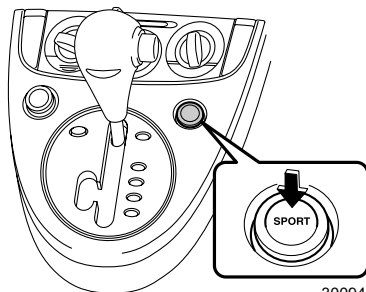
💡 アドバイス

“ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

スポーツモードスイッチ

運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、スポーツモード）を選択するスイッチです。

スイッチはセレクトレバーの横にあります。



●ノーマルモード

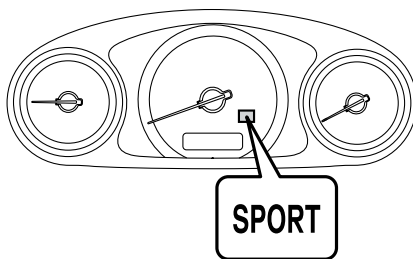
通常の走行で使用するモードです。

「SPORT」スイッチがOFFで「SPORT」表示灯は消灯しています。

●スポーツモード


登坂時や加速を重視したいときに使用します。

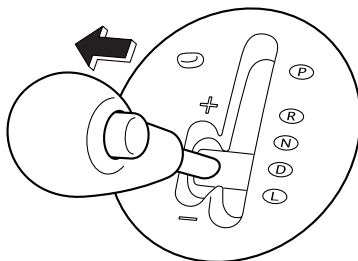
スイッチを押すとメーター内の「SPORT」表示灯が点灯し、ノーマルモードよりも高い回転数で走行します。



スポーツシフト

■ マニュアルモード

セレクトレバーを  の位置からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。



300041

■ シフトポジション表示灯

マニュアルモードにすると、ギヤ位置を表示します。

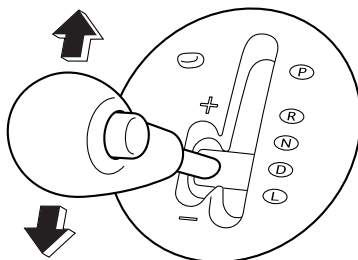


300654

■ シフト操作

● セレクトレバー

1段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを ⊕ 方向に押します。1段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを ⊖ 方向に引きま



300110

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートからDの位置に移動させます。

注意

以下の状態では、シフトアップ/シフトダウン操作を行っても変速をしない場合や、シフトインジケーターの数字が変わらない場合があります。

- 低すぎる車速でシフトアップを行ったとき
- シフトダウンすることによりオーバーレヴ（エンジン回転がレッドゾーン以上になること）しそうなとき
- 滑りやすい路面でタイヤがスリップした状態でシフトダウン操作を行ったとき
- Dからマニュアルモードに操作した直後の1回目のシフトアップまたはシフトダウン操作を行ったとき

オートアップ機能、オートダウン機能

- 加速時、エンジン回転数が規定の回転数に達すると、マニュアル操作をしなくとも自動的にシフトアップします。
- アクセルの踏み込み量が少ない状態または、ブレーキなどで速度が低下し、エンジンがアイドリング回転に近づくと自動的にシフトダウンします。
- 下り坂などでアクセルを踏み込まない状態で加速した場合には自動的にシフトアップすることがあります（エンジンプレーキを効かせるときは、シフトダウン操作をしてください）。
- 停止時には必ず1速となります。このように、エンジン回転の上限、下限が設定されています。

その他

連続して2回以上のレバー操作を行った場合には、2回目までの操作を記憶し1回目の変速動作終了後、2回目の動作を開始します。
(3→1、2→4というような「飛び段」は行いません)

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オールホイールドライブ=全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-16ページ参照

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS ※

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。

ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

注意

- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなる場合があります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - － 道路のつなぎ目などの段差
 - － 凹凸路、石畳などの悪路
 - － 下り坂での旋回
 - － 路肩に草や砂利が多い道路
 - － 砂利道
 - － 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルを確実に踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - － エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - － ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

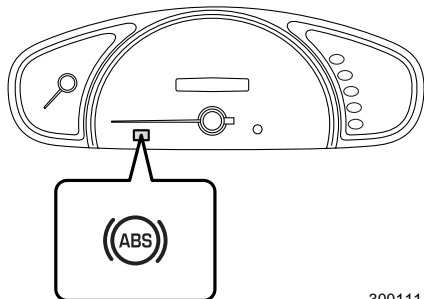
⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

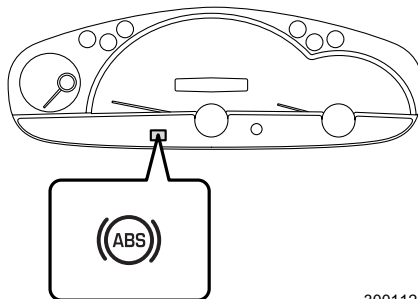
- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。
(ABSとしては作動しません)

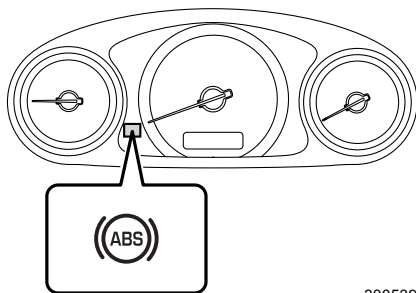
<タイプAメーター>




<タイプBメーター>



<タイプCメーター>



300539



アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

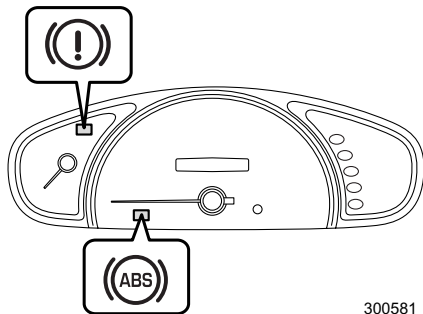

注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

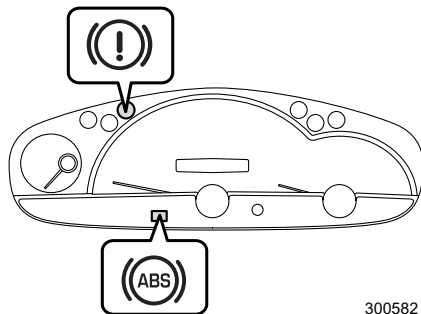
EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

<タイプAメーター>



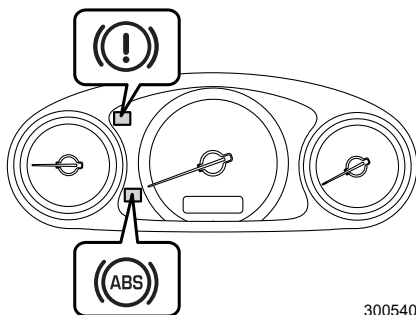
300581

<タイプBメーター>



300582

<タイプCメーター>



300540



アドバイス

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-25ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

MEMO